

付知川改良工事概要

(本文に就ては會員工學士櫻井哲三君の勞を煩はしたり、茲に感謝の意を表す。)

1. 箇所並に工事種類

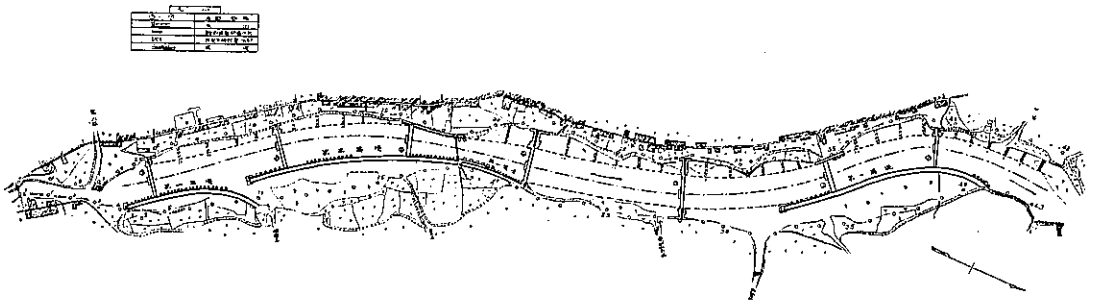
- (イ) 工事箇所： 岐阜縣惠那郡付知町地内
- (ロ) 工事種類： 昭和7年度 産業振興國庫補助工事
昭和8年度 農村振興國庫補助工事

2. 計畫概要並に工事狀況

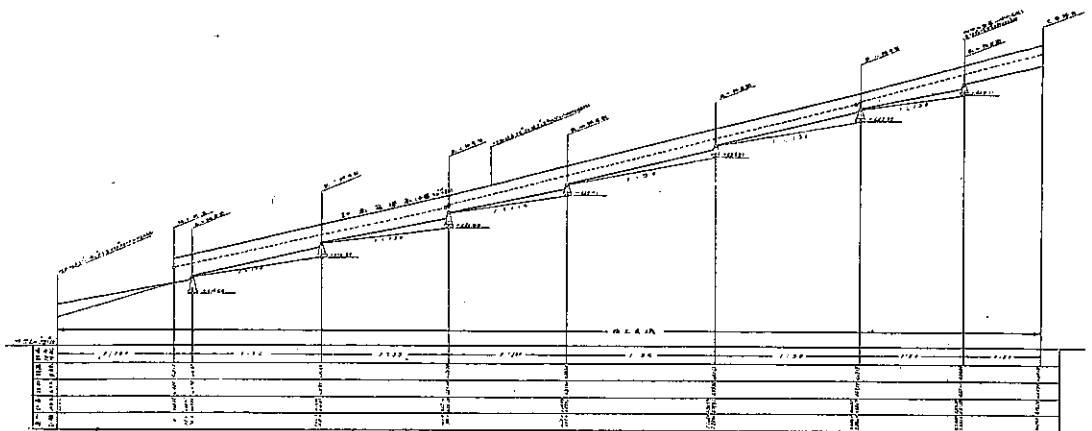
(1) 計畫概要 付知川はその源を飛騨、美濃、信濃 3 國の境なる裏木曾山中前山に發し急峻なる溪谷を蛇行南下し左右幾多の溪谷を集め 15 km にして付知町字大門地内に入る。これより下流に至りて始めて左岸に帶狀の耕地を見、右岸は 90 m 以上の臺地にして付知町の中心市街は此處に發達す。本川は流路を臺地の縁に選び東南に方向を轉じ 4 km にて同町字稻荷地内に入り再び流路を南に轉じ 16 km にして木曾川本川に合流す、流路延長 30 km とす。

流域内の地質は第 3 紀層石英岩及び花崗岩層より成り大半裏木曾御料林にして林相概ね良好なり。次に本改修區域は付知町字大門より下流同町字稻荷に至る 3 650 m にして改修下流地點に於ける流域面積 113.6 km²、流路延長 19 km なり。本區域河積は極めて廣大にして河心は洪水毎に變轉し左岸の耕地を浸すは勿論右岸の臺地も亦浸蝕止まる所を知らず。

第 1 圖 付知川改良工事竣工平面圖



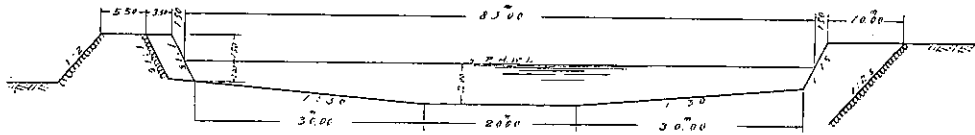
第 2 圖 付知川改良計畫縱断面圖



斯くの如き状態に放任するに於ては臺地に發達せし付知市街の滅滅は近き將來に屬し又貴重なる山村の耕地は年々減少する運命に置かれたり。故に本改修に於ては河心を固定しこれ等沿岸浸蝕の防止並に復舊に務め土砂の流下、河床の維持を圖り以て改良の實を擧げんとす。

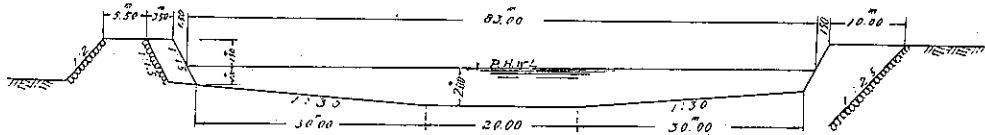
第 3 圖 付知川標準横斷定規圖

自 稻 荷 橋 上 流
至 付 知 橋 下 流



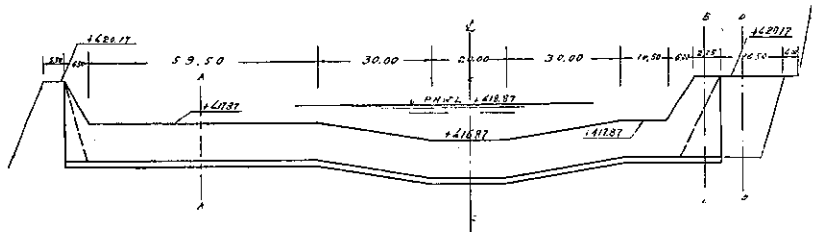
流量計算			
勾配	1 : 90	動水半径	1.716m
断面係数	0.035	C ₁ -R係数	31
断面積	135.65 ^{m²}	流速	4.2 ^{m/s}
河 道	83.15 ^m	流量	611.1 ^{m³/s}

自 付 知 橋 上 流
至 大 門 町

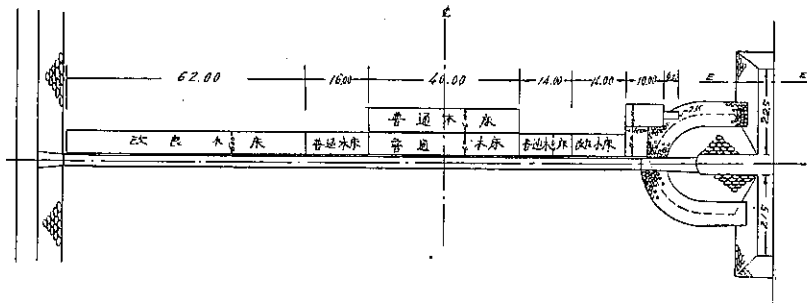


流量計算			
勾配	1 : 90	動水半径	1.63
断面係数	0.035	C ₁ -R係数	31
断面積	135.65 ^{m²}	流速	4.2 ^{m/s}
河 道	83.15 ^m	流量	569.73 ^{m³/s}

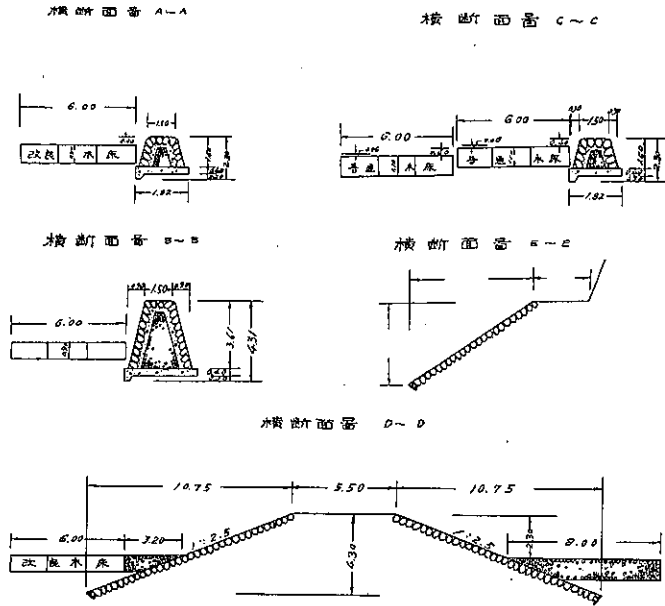
第 4 圖 甲號床固構造圖 其の 1



平面番



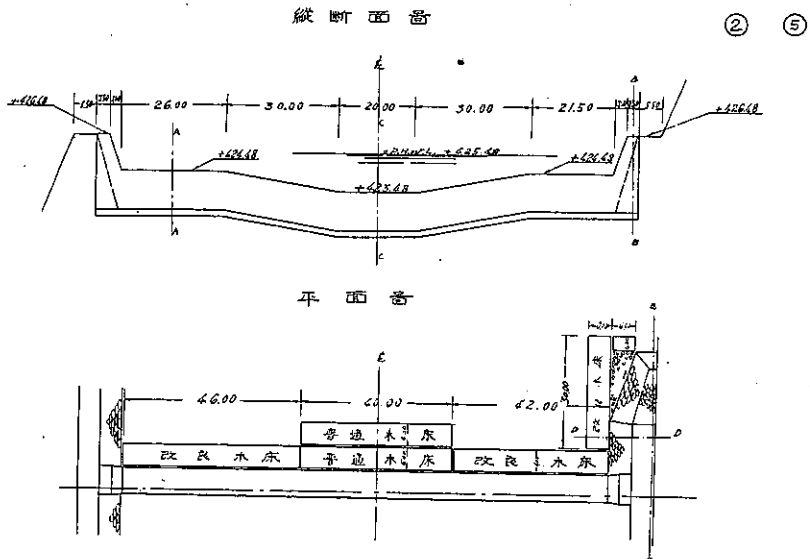
第 4 圖 其 の 2



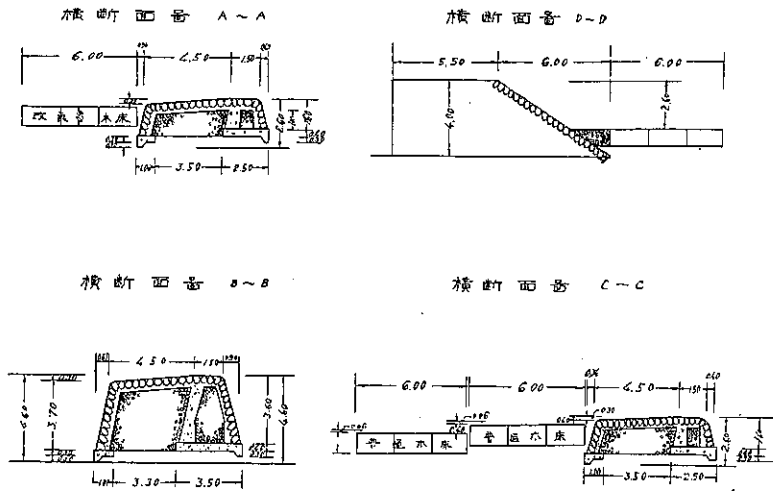
計畫洪水量は流域内の林相，雨量，流域状況及びその面積を考慮し 610 m³/sec と決定せり。この洪水量を流下せしむべき断面並に横断勾配は現在の河床に做ひ掘鑿は出来る限りこれを避くる様第 2 圖の通り決定せり，即ち全幅員 83 m とし流心部に 20 m の水平部を設け その兩側は現在河床横断勾配に做ひ 1/30 勾配を附し以て流身を固定せしめんとす。

計畫洪水勾配は大體付知橋下流 1/90，上流 1/80 として 7 箇所に床固工を設けたり。築堤は左岸を縦堤式，右岸

第 5 圖 丙號床固構造圖 其 の 1



第 5 圖 其 の 2



を横堤式としその間適當の位置に水制を設置し横堤間を游水地たらしめたり。

(2) 工事状況 本工事は中小河川改修工事として總豫算 385 000 圓を以て改修計畫中の處、昭和 7 年度に於て産業振興國庫補助工事として國庫の補助を受け工費 20 萬圓を以て同年 8 月縣直營工事として起工す。昭和 8 年度に於ては農村振興國庫補助工事として 135 000 圓の工費を計上せり、然るに主要材料の低廉及び工事施工順調に進み、爲に兩年度を通し約 40 000 圓の節約をなし昭和 9 年 3 月 31 日竣工せり。

第 6 圖



第 7 圖



3. 工事費

費 目	昭和 7 年度豫算(圓)	昭和 8 年度豫算(圓)	合 計 (圓)
本工事費	153 500	77 720	231 220
附帯工事費	—	4 890	4 890
船舶機械費	26 500	770	27 270
諸 費	5 500	4 820	10 320
小 計	185 500	88 200	273 700
事務費	14 500	9 800	24 300
合 計	200 000	98 000	298 000

4. 主要材料

品名	数量	単価(圓)	製造納入者	金額(圓)
木材類				19 818.015
金物類				28 926.790
油類			日本石油株式會社製	1 468.951
セメント	25 957袋	1.344	小野田セメント株式會社製	34 889.712
計				85 103.468
追記				
職工人夫	177 893人	0.803		142 869.770

5. 主要機械器具

品名	数量	價格(円)	納入者
6 kg 梯形軌條直線 5.5m	700挺	8 480.00	岡本商店外 1 名納
6 kg 軌條直線 5.5m	1 170本	4 570.00	岩崎レール商會内
6 kg 梯形軌條曲線	70挺	365.00	岡本商店外 1 名納
6 kg 梯形軌條分離線	13挺	232.00	岡本商店外 1 名納
可搬式ドラム型コンクリート混合機	1 臺	1 347.00	岡谷合資會社納
發動機付排水機	2 //	1 296.00	岡谷合資會社外 1 名納
6 分積土運車	250 //	7 524.40	三菱商事株式會社外 6 名納
合計		23 814.40	

6. 工事執行者 岐阜縣
7. 計畫、設計者 土木技師 橋本 章
8. 工事監督者 土木技師 平井 寛
9. 施工方法 直營
10. 起工年月 昭和 7 年 8 月
11. 竣工年月 昭和 9 年 3 月

當古橋新設工事概要

(本文に就ては會員工學士川越篤君の勞を煩はしたり、茲に感謝の意を表す。)

1. 箇所並に工事種類

位置：愛知縣寶飯郡豐川町大字當古
愛知縣八名郡石卷村大字玉川

路線名：府縣道豐川氣賀線

河川名：豐川

2. 計畫概要並に工事狀況

(1) 概要

本橋は指定府縣道たる豐川氣賀線中豐川に架設せるものにして、豐川稻荷所在の地たる豐川町より本坂峠を経て静岡縣氣賀町に通ずる所謂往時姫街道と稱せし路線なり。

東は濱名湖の北波を迂回して、濱松の宿に合して遠く東郡に伸び、西は豐川町を経てこれ亦東海道(國道 1 號路